

※この資料に記載された数値やコンセプト、図面、パースなどは、景観アドバイス部会が開催された令和3年3月4日時点のものであり、その後変更となる可能性があります。

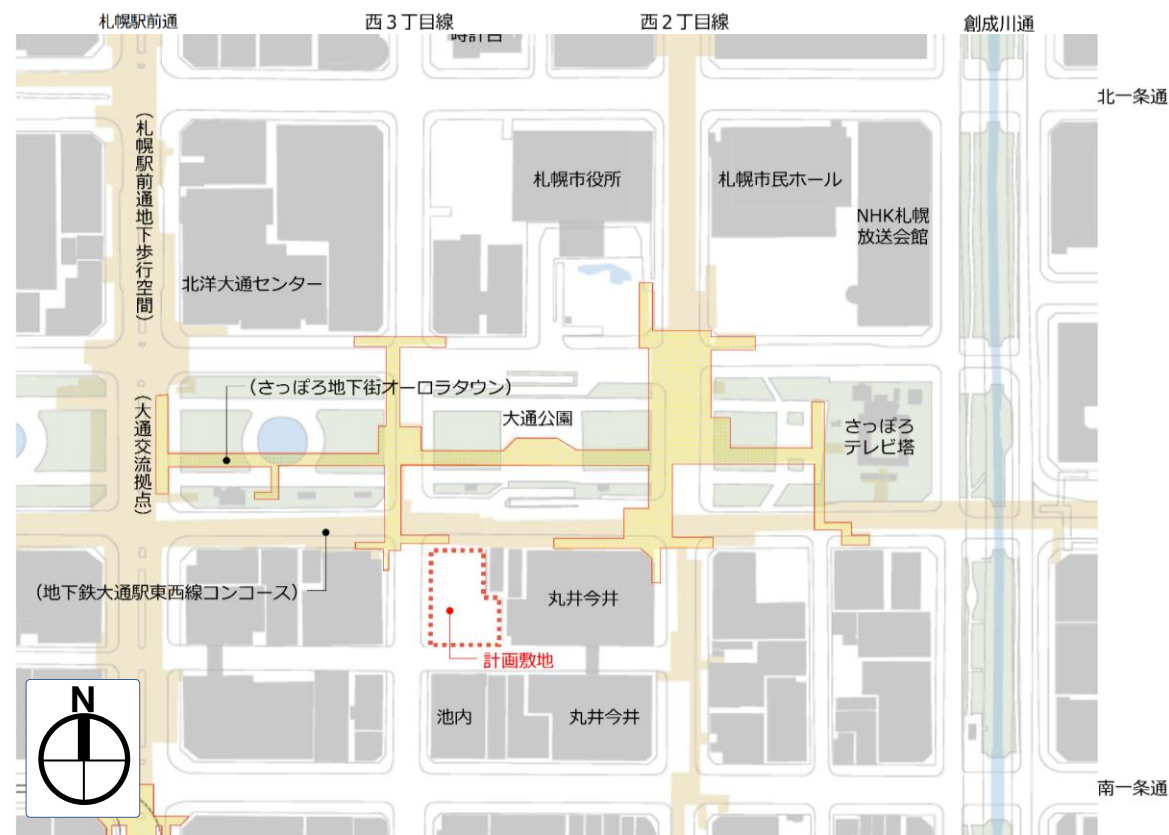
(仮称) ほくほく札幌ビル (設計段階)

1. 計画の概要

(1) 計画概要

申出者	富山市堤町通り一丁目2番26号	行為の場所	札幌市中央区大通西2丁目5
	株式会社北陸銀行	行為の種別	建築物の新築
	代表取締役頭取 庵 栄伸	敷地面積	1,597.31 m ²
		延べ面積	約17,800 m ² (容積率約950%)
設計者	名古屋市中区栄4-15-32	建築面積	約1,276 m ² (建蔽率約80%)
	株式会社日建設計	高さ	約60m
	設計部門設計部 白石 記之	主要用途	銀行営業店舗、事務所、駐車場

(2) 位置図



(3) 周辺の状況

1) 計画地の状況 (図1)

- ・計画地には、既存建物（北陸銀行札幌支店）がある。
- ・既存建物は竣工から約55年が経過し老朽化していることに加え、基準容積率800%に対して消化容積率が270%の低利用な状況である。



図1 計画地の状況

2) 大通公園のにぎわいが感じにくい沿道空間 (図2)

- ・地下鉄出入口が大通公園と計画地の間に位置しており、大通公園への視界が一部遮られる。
- ・計画地は大通公園に面しているものの、建物内部から大通公園への見通しは少ない。

3) 地下鉄出入口の階段による、歩行幅員の減少・にぎわいの分断

- ・敷地前面の地下鉄コンコースは、地下出入口の階段によって歩行幅員が減少している。
- ・計画地周辺には地下に面して商業施設が位置し、にぎわいを形成している一方、計画地前面には地下出入口の階段等があり、地下鉄コンコースの東西方向のにぎわいが分断されている。



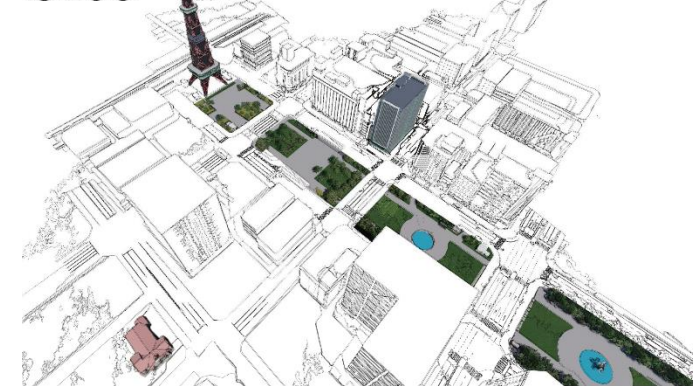
図2 計画地と大通公園の関係

2. 景観形成の基本方針

(1) Site

- ・大通公園の緑を取り込む伸びやかなガラスファサードの採用

Site



(2) Cooperation

- ・西3丁目に対して壁面を分節し、壁面の圧迫感を軽減

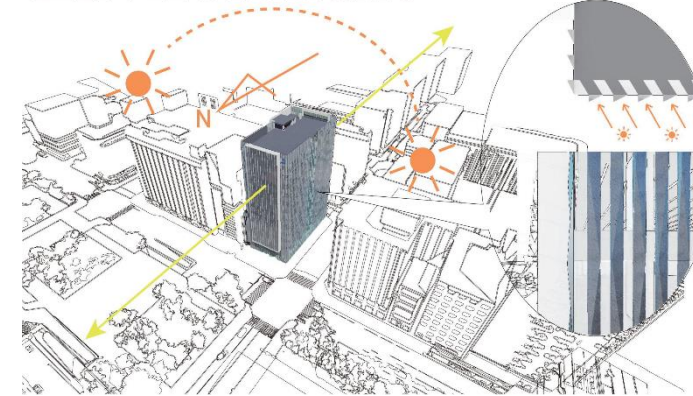
Cooperation



(3) Environment

- ・東西方向はPCaのファサードで日射を遮蔽することで建物の環境性能を高め、緑豊かな札幌の環境に配慮

Environment



(4) Open Space

- ・地下2階と1階にオープンスペースを配置、大通公園と沿道に新たな賑わいを創出

Open Space



3. 景観アドバイス部会 (設計段階) における意見交換

(1) 景観アドバイス部会の概要

- ・実施回：令和2年度第4回景観アドバイス部会
- ・日時：令和3年3月4日(木) 13:45~15:05
- ・会場：さっぽろテレビ塔2階「すずらん」
- ・出席委員：岡本浩一部会長、小澤丈夫委員、窪田映子委員、松田泰明委員、森朋子委員、渡部純子委員、
- ・出席事業者：株式会社北陸銀行、株式会社日建設計、株式会社北海道日建設計



(2) 意見交換の概要

1) 建築物のデザイン等について

【委員】特徴的な西面のファサード(図3)は、具体的に、四季や1日の時間をとおしてどういう風な表情を映し出すのか。

【事業者】縦方向の部材は平面に角度をつけているのではなく、プレキャストコンクリート(PC)に稜線があるような形で斜めに角度をつけており、その角度が87度(落雪の影響等を考慮してほぼ鉛直面でありながら、陽の光を受けて陰影が出る角度)である。斜めになる向きを順番に変えているため、光の当たる部分と影になる部分とが一様にならず、陽の当たり方によって、時間帯によって、それぞれの見え方になってくると思われる。

実際にどのように見えるのかも検証したうえで、最終的な決定に進めていきたい。

【委員】西面のカーテンウォールは、あまり見たことがないので、どのような見え方になるのか期待に加え不安感もある。繊細な織物のようなものになるのか、存在感を持ったものになるのか、あるいはその両方が、中景で見るとき、歩道を歩くとき、すぐ近くで見るときにどう見えてくるのかを慎重に検討していただきたい。

【委員】西面の垂直ラインが近づきたい雰囲気を持っているように感じた。また、北面を東から見たシミュレーション(図4)の印象として、外と中とのつながりが弱い印象を受けた。大通側のセットバックがもう少しあれば、外側への仕掛けがしやすかったのかなという思いもある。今日のやり取りの中で、中と外とをシームレスにしたいとの話や、外にもっと賑わいを出したいという話があったため、その方向で(実際に効果が出るよう)もう一段積極的に検討されることを期待する。



図3 西面のイメージパース



図4 北面を東から見たシミュレーション

2) 屋内広場について

【委員】屋内広場は、普段は景観的に特別な使い方をするのか。あるいは、ビルのエントランスホール的な静かな空間となるのか。

【事業者】広場に面して店舗を配し、その店舗を利用した人が広場を使うなどの使い方が想定される。イベントなどに限定した使い方としない方がよいと考えている。可搬型の家具と可搬型の植栽を組み合わせ、店

舗や銀行店舗への動線を確保しつつ、色々な滞留スペースができるような空間を目指したい。

また、大通側のガラススクリーンを開放できるような構造にできないかとも考えている。この場合、広場内の家具などを外部にも設置できるようにするなど、色々な使い方を想定できる広場としたい。

【委員】大通側から見たときに、ガラススクリーン、広場、店舗の3つがいつぺんに見えてくる。それらが大通公園に対して品がありつつ賑わいのあるものとなるよう、店舗の見え方を含めてトータルデザインで検討いただきたい。

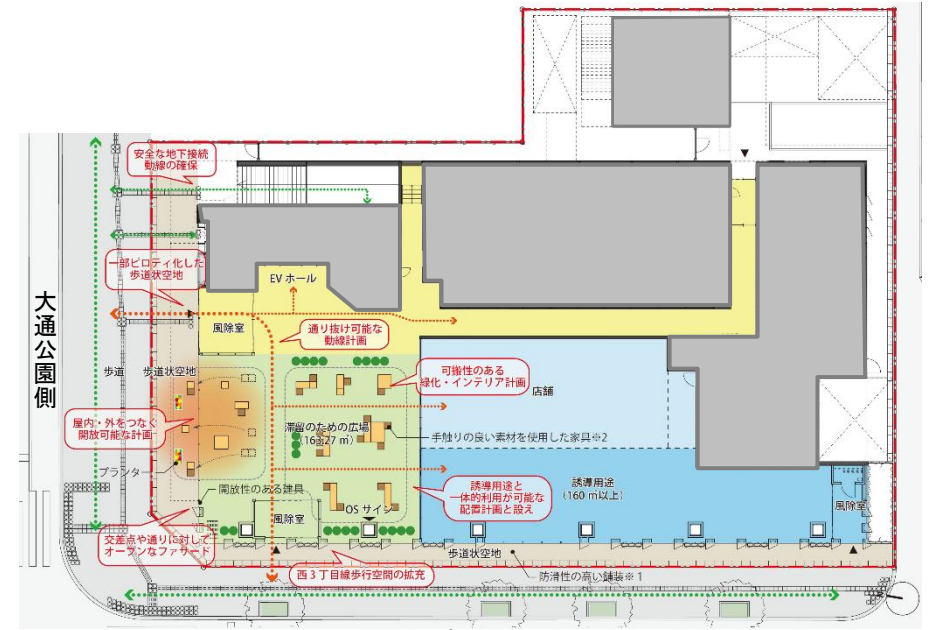


図5 オープンスペースの計画

【委員】屋内広場の作り方によっては店舗の外席ととられるような空間になってしまい、公開空地として認識されないおそれもある。コモンな雰囲気の空間となるよう計画・運用されたい。

3) みどりについて

【委員】広場には可搬型のみどりを設けるとのことだが、どのくらいの事までできることを想定しているのか。この周辺のエリアは、大通公園という骨格的なみどりがありながら、足元には花壇があり花が咲いているという雰囲気もある。このような雰囲気を、このビルの中で拡張していくことについて、何か考えを持っているか。

【事業者】屋内広場に中高木を植えていくのは、植物の生育としても困難であることから、可搬型のプランターなどを配置していく予定である。グリーンのものだけでなく、季節に合わせた色とりどりのものを入れていくことも可搬型の方がやりやすいと思われる。具体的に何ができるのかについては、今後検討したい。

【委員】今後、北海道でも屋内型の緑化が増えてくると思われる。良い事例となるよう、みどりを生かした良い空間を作っていただきたい。

4) サイン計画について

【委員】周辺には観光スポットなども点在している。イベントも多い。観光客も情報が得られるようなサインがあってもいいのではないかと。観光客にも優しく移動のしやすいサイン計画となることを期待する。

【事業者】市内の大型案件では周辺のサインを設けるという取り組みもあるようだ。他の事例を参考にしながら、今後、検討していきたい。

5) 記憶の継承について

【委員】既存建物は、とてもユニークな建物であり、札幌市民からも愛着を持たれているのではないかと感じている。現在の建物のアイデンティティや記憶を次に残していけるような、何らかの工夫はできないか。

【事業者】北海道と北陸銀行の関係を少しでも継承するという点については、そのとおりであると思う。どういう風に見せていくのかは検討中であるが、なぜ北陸銀行がここにあるのかということを知らない人にも見てもらい、北海道と北陸のつながりを意識してもらえそうなものを何か作りたいと思っている。